



朝れスピ一千集

私は読書が趣味の一つであるのですが、最近読んだ『言いかえ図鑑』という本読んで、「言葉は難しく、そしてとても大切だと改めて感じました。」

まずこの本を簡単に説明すると、会話の中で生まれる余計な一言を好かれる一言へと変換するものを141例、15のシーン別に分けて説明しているものです。

例えば「今日は素敵ですね」と「今日も素敵ですね」では前者の方が相手に不快感を与えてしまいます。なぜなら今日「は」と言つてしまう事で、いつも素敵ではないのかと相手に思われてしまう可能性があるのです。このように「は」と「も」のたった一文字が違うだけで相手に与える印象が大きく変わってしまうほど言葉というのは繊細で恐ろしいものです。さらに恐ろしいのが、人は無意識に余計な一言を発してしまうのです。皆さんもあの時の言葉は良くなかつたなど思い返す事が何度かあったかと思いません。しかしそれ以上に無意識レベルで相手を傷つける発言をしてしまっているそうです。

よく、言葉は使い方を誤れば凶器になってしまふと言われます。その反面良い使い方をすれば人を救うことができると思います。皆さん言われて傷ついたこと、嬉しかったことは記憶に根強く残っていると思います。その為言葉は慎重に選ぶ必要があります。伝えたいことが同じ意味ならば、私もこの本のように言い換えによって相手ににとって良い言葉を使いたいと思います。いずれ磨き上げられた言葉のチョイスで魅力的な人に近づきたいです。是非皆さんも本書を手に取ってみてください。

(介護員 入江知至)

5月8日からコロナの規制が緩和され、世の中が今までの暮らしに戻ってきつつあります。清華苑でもフロアでの面会が再開されました。私が入職する前から面会は正面玄関で行っており、フロアでご家族の方がいらっしゃる光景を見る事がほとんど無かつた為、新鮮に感じています。サークル活動や様々な行事などが徐々に再開されており、私が当たり前だとと思っていた今までの清華苑の雰囲気がこれから変わっていくことがとても楽しみです。

開放的な場所で遊ぶと心も開放的になるのか、お酒を飲んでどんちゃん騒ぎをする騒音問題や食べ残しやゴミを放置する「ゴミ問題など多くの問題が挙げられています。近隣に住む方も頭を悩ましており、キャンプ場の有料化、最悪の場合、キャンプ場の閉鎖などに踏み切る所もあるようです。

マナーの良さ、モラルの高さは昔から日本人の良さだと思っていたが、近年ではその性善説は通用しなくなっています。

どこの企業でもSDGsを掲げ取り組みを始めています。また、清華苑では明石市のSDGsパートナーに登録されています。しかし、一番大切な事は私たち一人一人が意識をする事です。「誰も見ていないからいいだろう」「誰かが片付けるからいいだろう」など低い意識は普段の仕事にも影響すると思います。常日頃から自分が率先して行うという強い意志を持って生活していく主义思想でした。

(介護員 長谷中雄斗)



編集後記

(介護員 木村海誠)

今回の「はな華」は4年ぶりの開催となった納涼祭や家族会、それぞれの職員の想いが詰まつた内容となっております。今後とも皆様に楽しんで頂けるような「はな華」を発行して参りたいと思いました。

(生活相談員 原田七海)

はな華



特別養護老人ホーム 清華苑 広報紙

2023年9月15日 第73号

発行：社会福祉法人 三幸福社会

発行人：総施設長 池田昌弘

編集：SEIKAEN Design Lab

〒674-0051 明石市大久保町大塙 3104番1

TEL 078-934-0800 FAX 078-934-0830 https://seikaen.jp



社会福祉法人 三幸福社会
清華苑

miyukifukushikai seikaen

4年ぶりの納涼祭

施設長 岩西太一



平素は当苑の施設運営にひとかたならぬご理解、ご協力をたまわりありがとうございます。新型コロナウイルス感染症により中止を余儀なくされた清華苑納涼祭を4年ぶりに開催させていただきました。

従来は地域の方々やボランティアの方々もお招きして実施しておりましたが、今年はご利用者、ご家族、職員だけでの開催となりました。4年ぶりともなると職員の中には清華苑納涼祭を知らないスタッフも少なくなく、準備に抜かりはないのか、無事に開催出来るのか不安も多かったです。が事故もなく閉会出来たことに正直、安堵しております。

納涼祭に向けて、業務終了後に全職員で盆踊り練習、有志職員によるバンド演奏「ちゃんぶるー」、1年目職員によるダンス「ジャンボリミッキー」など、それぞれが特訓をしてご利用者、ご家族に喜んでもらいたい一心で頑張りました。

限りある人数、時間の中、容易ではありませんでしたが、ご利用者とご家族が美味しそうに明石焼きを食べる姿、楽しそうにお話される姿、何より笑顔で過ごされている様子を見て、本当に開催して良かったと思つております。

従来は地域の方々やボランティアの方々もお招きして実施しておりましたが、今年はご利用者、ご家族、職員だけでの開催となりました。4年ぶりともなると職員の中には清華苑納涼祭を知らないスタッフも少なくなく、準備に抜かりはないのか、無事に開催出来るのか不安も多かったです。が事故もなく閉会出来たことに正直、安堵しております。

また職員にとつても納涼祭という一大イベントを通して、「ご利用者とご家族に楽しく過ごして頂くんだ」という共通の目標に向け、それぞの部署が自らの持ち場から一致団結、協力しあいました。それにより、部署の垣根を越え、より一層絆の深まりを感じることが出来ました。私自身、改めて頼もし仲間に支えられています。自身、改めて頼もし仲間に支えられることを思い知りました。また当日、全員が納涼祭に参加できる訳ではありません。当日もフロアに残り、排せつ介助や水分補給を担当してくれた職員の存在も忘れてはなりません。

私の日頃の行いが悪いのか当日は終盤に雷雲が近づき、一瞬にして空が真っ暗になり雷が鳴りだしたため大事をとて全プログラムの実施には至らず、繰り上げての閉会となりました。参加いただいた方には大変申し訳なく思っています。ただ雨に打たれることなく全入居者様を館内へ誘導させていただけたことは英断であったとのお声を後日、方々から頂きホッとしました。部分もあります。

今後とも至らぬ点も多々あろうかと思いますが、清華苑に関係する全ての方々が穏やかな日々をお過ごしいただけるよう職員一同、精進して参ります。



スキーだけが強みじやない！

統括部長 田村智之

にじが空にかかるて

看護主任 大島さおり

夏と言えば「山」を思い浮かべる方が多いと思いますが、「夏のスキー場」と聞いてピンとくる方は少ないはずです。私もその一人でした。まあスキー場の1年を考えてみます。冬になれば雪が降り、多くの人がスキーなどのウインターパークを楽しむために訪れます。やがて春になり暖かくなつてくれば雪も溶けてきてスキー場としての役目を終えます。そのため夏のスキー場は楽しめないと思つている方も多いのではないかでしょうか。

ところが、夏のスキー場、実は今や人気スポットの1つなのです。長野県白馬村の「白馬岩岳マウンテンリゾート」はその代表的なスキー場の1つです。

経営者の和田 寛さんは様々なアイデアを実現させることで夏場の来場者が冬場の2倍にもなつて話題になりました。

和田さんが実際に取り組んだアイデア

- ① アルプスの少女ハイジを思わせる巨大ブランコを作った
- ② 初心者向けマウンテンバイクコースを作った
- ③ 日本初の「山頂での音楽フェス」を開催したetc



「家族会」のご協力に支えられて

生活相談員 北野里奈

日々の活動へのご協力・ご理解を賜りまして誠にありがとうございます。

清華苑では、近年、面会の制限や行事企画の自粛などがありました。現在は面会やボランティア活動の受け入れ、行事の実施などを模索しながら再開しつつあります。

この度は、「清華苑家族会」について紹介いたします。

清華苑家族会は、「利用者のご家族の皆様にご参加いただきまして、ボランティア活動を通して相互交流を図るとともに利用者の快適な生活を支援し、施設運営へのご理解とご協力をお願いする目的に活動を行っています。

具体的な活動内容は、以下の通りです。

- ① 車椅子清掃・古布裁断ボランティア 毎月第1土曜日 ※
- ② 居室清掃ボランティア 每月第3日曜日 ※
- ③ 行事などの支援

※日程は原則予定日です。

相談室だより



夏のスキー場を経営している」と考えていたら思いつきませんが「自分は山という資源を活用している」と考えたうんどうでしょうか。そうすれば「山」を活用した色んなアイデアが生まれてきます。

自分は『〇〇屋』だからそれ以外は関係ない

と思い込んでしまうのではなく、自分が持つている「強み」は何か。その「強み」を活かしてどんなサービスを提供できるか考えてみる

ことで新しい選択肢が増えてくると思います。

私たち自身も「介護施設を経営している」でなく「介護の知識・技術という資源を活用している」と考えるようにしています。

夏のお出かけの際は、スキー場もぜひ選択肢に入れていただきたいと思います。とは言

うものの、もう秋にさしかかっているので今から「夏のスキー場」を満喫することは難しいかもしれません。来年の夏はお近くのスキー場へお出かけしてみてください。

「こうじう発想は、「自分はスキー場を経営している」と考えていたら思いつきませんが「自分は山という資源を活用している」と考えたうんどうでしょうか。そうすれば「山」を活用した色んなアイデアが生まれてきます。

自分は『〇〇屋』だからそれ以外は関係ない

と思い込んでしまうのではなく、自分が持つている「強み」は何か。その「強み」を活かしてどんなサービスを提供できるか考えてみる

ことで新しい選択肢が増えてくると思いま

す。

私たち自身も「介護施設を経営している」でなく「介護の知識・技術という資源を活用している」と考えるようにしています。

夏のお出かけの際は、スキー場もぜひ選択肢に入れていただきたいと思います。とは言

うものの、もう秋にさしかかっているので今から「夏のスキー場」を満喫することは難しい

かもしれません。来年の夏はお近くのスキー

場へお出かけしてみてください。

夏特有の夕立も最近は真っ暗になつたかと思つたらスコールのよう

なり方で、まるで亜熱帯地域かと疑つてしまふくらいです。先日の夕食の時間もそうでした。暗くなつた途端、ザーと降り出しましたが数分でやみ、すぐに夕日が顔を出し始めました

同時に過ぎ去つていった暗い雲に虹が出来ていました。虹を見たのがすごく久しぶりのような気がして感動してしまいました。近くにいた職員が「なんだかいいことがありますね」と言つた笑顔に、また嬉しくなりました。

皆様の心にもそんな【にじ】が届いた。

悲喜こもごも、いろいろあると思ひます。がこの曲を聴き終わるころには、それも吹っ飛び、また明日もがんばろうという気持ちになります。虹

とにじで清々しい気持ちになります。

今年は酷暑に見舞われ本当につらい夏になりました。仕事、買い物、掃除と何をしていても暑くて息が上がり、涼しい冷房が効いた部屋でジー

としているのが1番と思ってしまいました。

不思議ですね、年齢を重ねて数年後には日本の四季が夏と冬の一季になるのではと解説している方

もいます。が最近の気候変動をみていくとどうかもしれないと思つてしま

ります。

数年後には日本の四季が夏と冬の一季になるのではと解説している方

もいます。が最近の気候変動をみていくとどうかもしれないと思つてしま

ります。

数年後には日本の四季が夏と冬の一季になるのではと解説している方

もいます。が最近の気候変動をみていくとどうかもしれないと思つてしま

ります。



ネガティブな私が救われた

介護員 日置美亜

介護という仕事を始めたから、1年半ほどが経ちました。1年半経った今でも、「ご利用者から直接「ありがとう」と伝えてもらうと凄くやりがいを感じます。「ありがとう」と伝えてもらう事で自然に笑顔になれたり、次の仕事も頑張ろうと思える事が私のやりがいに繋がっています。

私は「ご利用者の中でも日頃からコミュニケーションを多くとっているA様」という女性の方がいます。A様は、認知症がある方なのですが、凄く心の綺麗な方でいつもたわいもない会話をよくしていました。

先日、私は「ご利用者に関する事故に直面し、その後から少しずつ「この仕事を続ける事が出来るだろうか」と感じるようになっていました。

初めて真剣に仕事をやめようかななど考えていた時に、A様が背中をポンと叩いて「私あんたがおらんくなつたら嫌やで。こんなに信用してい

る人おらんもん。」と言われました。突然の事だったので、A様に「急にどうしたんですか。」と聞くと、「急にあんた辞めるんちゃうかなと思つたんよ」と言されました。A様は、その時笑いながら仰られ、冗談のつもりだったのかもしれません。

いつも、「銀行にお金預けてくれたか」やおやつの時間は「このおかげあんたの為に置いといたで」など、普段からは考え方のA様の言葉にネガティブな気持ちが続いていた私は凄く救われました。

私がA様に救われたように、介護の仕事をしている人として「ご利用者に笑顔をたくさん届けたいと思いました。

また、人と人とのつながりを大切にしながら、この仕事を自分が納得するまで続けようと思いました。



エピソードに掲載されているご利用者と写真に映られているご利用者は別の方で関係はありません。

STAFF VOICE

スタッフボイス

特別養護老人ホーム 清華苑

介護、看護、相談、調理、事務、それぞれの部署で働くスタッフの声をご紹介します。



社会福祉法人 三幸福祉会
清華苑
miyukifukushikai seikaen

趣味と仕事は、ボーダレス。

介護員 小畠瑞希

私は毎月一回行っている趣味があります。それは、カフェ巡りです。神戸・姫路・明石いろいろな場所を巡っていて、その中でも最近は『古民家カフェ』にハマっています。古民家カフェとは、古い日本家屋をカフェに改装したもので、様々なデザインや内装の物があり、そこでコーヒーやお菓子を楽しみます。

職員の方に趣味の話をするとき、「ここでもカフェエレクがあるからしてみる?」と言われ始めることがあります。私は自分の趣味としていたことが仕事で活かせるとは思いませんでした。

ある日突然、カフェ担当をすることになりましたが、初めてのことでのから始めて良かつた私ですが、初めてのことでのから始めて良いか分からず途方に暮れる毎日でした。

そこで私はいつもとは雰囲気が違うカフェに実際にに行ってみようと思い、地域のゆつたりとしたカフェを巡ることにしました。

店内には、「ご利用者と同じくらいのお客さんがおられて、店員や周りのお客さんと談笑しながらコーヒーを楽しんでいました。私は「これだ」と思い、まずは雰囲気に視点を向きました。以前のカフェエレクではなかった、テーブルクロス・花の置物を導入する事にして、雰囲気を楽しんでもらえるようにしました。

カフェエレク当日、モンブランケーキとカフェオレをご提供しました。そこでは普段あまり笑顔が見られないご利用者も「こんなおいしい物食べたの初めてや!」「この置物のお花可愛いね」と話してくださいました。その時に私は嬉しい気持ちと同時にカフェエレクはご利用者様を笑顔にできる「魔法のイベント」だと思いました。

カフェエレクがご利用者一人ひとりの楽しみでありますようにこれからも日々の学びも大切にしていこうと思いました。



エピソードに掲載されているご利用者と写真に映られているご利用者は別の方で関係はありません。